

2024年熊本県芸術文化祭オープニングステージ オーディション用課題曲

鼓童 前田順康

オーディションにあたって

この度は、本企画のオーディションにご参加いただきありがとうございます。
私は現在熊本を離れて活動していますが、県内で活動されているみなさんと一緒のステージに立つ機会をいただけて、とても嬉しく思っています。

宇土の雨乞い大太鼓と出会ったとき、言い表すことのできない「ものの凄み」を太鼓から感じました。
また、その雨乞い大太鼓を保存してきた地域や保存会がつくるコミュニティに尊さを覚えました。

私が感じたその尊さは、みなさんが現在所属しているグループにも共通していることでもあると思っています。
太鼓が好きだという気持ち、太鼓を叩きたいという気持ちと同じ人たち同士で集まっていますが、年齢や通っている学校、職業、太鼓以外の好きなことや興味があるものなど、その他の考え方や気持ちはそれぞれ異なっているでしょう。
そんな人たちと集まって時間を過ごすことは、太鼓の練習をすること、それによって技術を向上させることだけに留まらず、
自分は、そしてみんなは、なにが楽しいのか、嬉しいのか、悲しいのか、大切なのか、
多くの発見や気づきに導いてくれます。

太鼓に限らず、楽器や音楽は、言語や考え方の垣根を越えて、その場のみんなが一緒になって楽しむ機会を作ってきました。
そして、多くの人と触れ合うことで、楽器も音楽も、そこに集まる人も醸されていきます。
出会うことで、触れることで、自分自身や社会について考えるきっかけも与えてくれる存在です。

残ってきた太鼓、音楽。そして、それを繋いできた多くの人たちとで生まれてきた歴史や文化に思いを馳せ、今度は自分達が、太鼓や音楽の未来の姿を考えていけたらいいなと思っています。

課題曲について

さて、今回オーディションを開くにあたって、課題曲を書かせていただきました。
この曲ではみなさんのスキルというよりも、触れたことのない音楽に対してどう向き合っ
てくださるのかということや、フレーズとご自身のスタイルのすり合わせ、初めて合奏をする
人とどう関わっていけるか、ということを見させていたきたいと思っています。
また、作品を作っていくにあたり、譜面でのやりとりも発生しますので、
基本的な譜面の読み取りができるかということも選考のひとつに加えさせていただくために
課題曲というかたちを取りました。
音楽の再現という意味で、技術は大事な要素になってきますが、創作において大事にしたい
ことは必ずしもそこではありません。
あくまで、基礎的な技術を確認させていただくための課題曲だとお考えいただけたらと思
います。

楽曲を演奏するにあたって

- ・この曲は2名で演奏する曲です。
オーディションの当日、一緒に演奏をしていただくペアをこちらで指定させていただきます。
- ・それぞれの演奏者が宮太鼓と締太鼓を並べたスタイルで演奏をします。
- ・Aパートは演奏者から見て右に締太鼓を、左に宮太鼓を、Bパートは左に締太鼓を、右に
宮太鼓をそれぞれ配置します。
- ・楽曲の途中で宮太鼓と締太鼓とパートが入れ替わる構成になっています。
楽器の変更と同時に、表打ちと地打ちの役割が入れ替わります。(B1とB2の折り返しの箇所)
- ・使用いただくバチについて、厳密な指定はありませんが、宮太鼓と締太鼓の両方が演奏で
きる規格のバチを使用していただけたらと思います。